

季節外れの長雨や激しい雨に見舞われた今年の夏、科学技術を駆使し自然の地形を変えての生活の危うさが露見された出来事もありました。また、新型コロナ感染が拡大する中で、安心安全を唱えてオリンピック、パラリンピックが行われ、結果、感染は最大級となり各地で医療崩壊を招いてしまいました。愛知県でも緊急事態宣言が発令され、小中学校は2学期開始が遅くなり、分散登校やオンライン授業になるなどで家庭環境の変化が、園児にも少なからず影響を与えています。広木先生のWe b講演会「コロナ禍における子どもたち」を読み、この状況だからこそ何が大事なのかを見失わないように保育を考え実践していくと職員で話し合いました。そんな中、9月後半にほぼ同時期に蓮華の家とおひさままで保護者と園児にコロナ陽性者が出て、当事者でないと分からなかった様々な問題に心を痛める日々を過ごしました。今回の東海地区ニュースは、各園の夏の保育の一端をご紹介致します。

楽しかった！「魚祭り」

おひさま保育園(愛知県名古屋市)

斎藤先生の保育でプールに鯉を放つてつかみ、鯉のぼりを作る実践があります。おひさま保育園は民家を改築して作った園舎の為、敷地が狭く簡易プールを設営するのがやっとです。35年の間、形を変えながら魚をつかまえる行事を取り組んできました。近年では園児・学童・保護者・保育士が全員で8月最終の日曜日に、保育園から高速を使い1時間半かけて自然豊かな愛知県豊田市にある「くらがり渓谷」で鮎つかみをするのが恒例行事となっています。しかし、コロナ感染が急増する中で施設は閉園。そして緊急事態宣言の中、何がやれるか？を考え、大勢で密集するのを避ける為に保護者の参加は無くして、平日の保育日に保育園のプールで鮎つかみと流し素麺を行いました。鮎は朝早くに愛知県新城市から、保護者が仕入れてくれました。おひさま保育園では夏祭りは無い為、この行事を「魚祭り」と呼びながら年長児は課題の提灯作りに取り組みました。年長児の「今から鮎つかみを始めます」の声に合わせて点灯式。スケールは小さくなりましたが、子ども達は生き生きとして、魚を追ってつかまっていました。鮎はオーブンで塩焼きに、流し素麺ではどの子も喜んで沢山食べて大満足！縮小した行事でしたが形を変えて子ども達と楽しめて良かったと思っています。



年長提灯祭り

つばさ保育園・つばさっこ保育園(愛知県新城市)

年長児の提灯を披露することをメインテーマに“提灯祭り”を行いました。午後3時ごろより、手作りプールにアユを放し、学童・年長・3・4歳児と順に“つかみ取り”を楽しみました。勢いよく逃げ回るアユを、歓声を上げて追い回す子どもたち。短時間で2匹、3匹と捕まえてしまう子もいれば、なかなか捕まることのできない子も。それでも、30分余りで40匹のアユをすべて捕まることができました。捕まえたアユは炭火で焼き、午後5時ごろからは、お母さんたちが作ってくれた豚汁、おにぎりに焼いたアユをみんなでおぱぱりました。炭火焼きのアユの味は格別。上手に骨だけを残してあつという間に平らげていました。子どもたちは、お風呂に入るなどで汗を流し、開催予定時間の午後7時前には思い思いの浴衣、甚平に着替えて大人とともに会場に集まってきた。いよいよ提灯祭りのスタートです。司会が挨拶を終えると、年長児たちが一人一人、順番に自分の提灯を持って入場してきました。それぞれの個性あふれる提灯に、お母さんたちの感嘆の声。入場し終わった年長児が並び、提灯づくりの楽しかったこと、大変だったことなどを発表。絵具を塗ることが楽しかったこと。張り合わせるのが難しかったこと。みんなより時間がかかったけどやり切れたことが嬉しかったと話してくれた子どももいました。そして、クライマックスの提灯点灯。その幻想的な美しさに会場いっぱいにみんなの歓声が響き渡りました。しばらく、飾られた提灯を眺めたり写真を撮ったりした後は、学童と年長児のお母さんたちによる出し物「わらじベ王子」の発表です。スタートは年長児がテーマソングを歌い、続けて学童母たちによる朗読と年長児母たちによる歌で物語は進行していました。スクリーンに大きく映し出された絵とともに、お母さんたちの熱演を子どもたちも真剣な表情で観ていました。短い時間ではありましたが、夏の夜のひと時、大人と子どもの手作りの催し物をみんなで楽しむことができました。



七夕

たけのこ保育園(静岡県島田市)

島田市は毎年旧暦で行う為、8/6に七夕まつりを行いました。7/10の東海地区学習会年齢部会で“課題から学ぶ”をテーマに、各園の実践を出し、学び合いました。東海地区の4園は、先に天の川製作を行っていた為、実践や写真も見せていただき、大変参考になりました。東海地区指導者 佐藤美津子さんからもアドバイスをいただき、今年の天の川はどのような材料を使い、どのように七夕まつりを子ども達に手渡そうか？と職員で話し合いをしました。書き初め紙にポスターから5色を水で溶き、筆で塗り、8等分に折って切る方法でやってみました。毎年恒例の竹とりは大変ですが、子ども達みんなで力を合わせて、山から大きな竹を切り出し、ホールに運びました。また、99才のおじいちゃんの“こより作り”を見て、自分たちも作ってみました。里芋の葉にたまたま朝露で墨をすり、一人一人の願い事を保育士が聞き、短冊に書いて竹に飾りました。佐藤さんの『課題=遊びだよ！』と言われた言葉は、子ども達にぴったりで、天の川作りが楽しくて楽しくて、中には5枚も作りあげた子もいました。七夕の由来を子どもたちに伝えたことと併せ、平和への願いも込めました。



「太い筆で染めいく筆使いの最初の体験」みんなで楽しみました。

蓮華夏祭り

蓮華の家共同保育園・蓮の実保育園(愛知県岡崎市)

緊急事態宣言中でしたが、昨年同様園内ののみの参加で、参加者、内容を絞り、時間を短縮し行いました。年長の保護者主催で30年近く続けられている“蓮華夏祭り”。今年の年長は6人のため、4歳児の保護者にも協力してもらって手作りのやぐらを組んで行ないました。内容としては、フグ釣り、輪投げ、うちわ作りなどの夜店、盆踊り(まるまる音頭やオリジナルのお祭りわっしょいなど)、うす暗くなったら頃に盆提灯披露。年長児が何日もかけて、思いを込めて作り上げた盆提灯が、子どもたちの竹太鼓の音と共に夏の夜空に美しく輝きました。小さい時から憧れていたその瞬間を迎えた子どもたちの顔は盆提灯と変わらないくらい輝いていました。また3歳児は色画用紙で買い物バッタ、4歳児は折り紙でプレゼントを作つて心待ちにし、当日は浴衣や甚平姿で集まり、みんなで夏祭りを楽しみました。蓮の実からも2歳児以下の子どもたちが親子で参加し、盆提灯の輝く様子を見つめながら大きい子たちへの憧れも膨らんだようです。続けていくことの大切さを感じた今年の夏祭りでした。



学童夏の合宿

恵の実保育園(愛知県豊川市)



コロナ禍2年目の夏、恵の実の学童は、8泊9日の合宿を行いました。場所は新城市鳳来寺山の参道にある大正時代に建てられた旧門屋小学校という廃校です。近くには山や川があり、夜になると星がとても綺麗な自然豊かな場所です。ここで1年生から6年生までの26人が、5・6年生を班長に、力を合わせて過ごしました。これは信州大学の平野吉直教授らが提唱している『長期キャンプが子どもの大脑活動と「生きる力」を育てる』という研究報告を参考にして行ったものです。突然の夕立に洗濯物を濡らされたり、水道が壊れて水が止まらなくて困ったり、仲間と喧嘩して辛くて寝て過ごしたりと様々なことがありましたが、テレビやゲームがない生活中で、炊事、洗濯、掃除などを協力して行い、帰る頃には「俺たち、23人の家族だ」と仲間との絆も強くなりました。またこの辺りは日本最長の断層帯『中央構造線』があることもあって落ち葉や貝の化石を頻繁に見つけることができ、鳳来寺山自然科学博物館の館長さんの話を参考に、東三河の自然の不思議さにふれることができました。コロナ禍、子どもたちの心身の健全な発達のための子どもの自然体験活動」を推進しています。引率者も含め、2週間前からの会食等の自粛・健康観察、マスク・換気を心がけ、細やかに且つダイナミックに活動を行っています。